

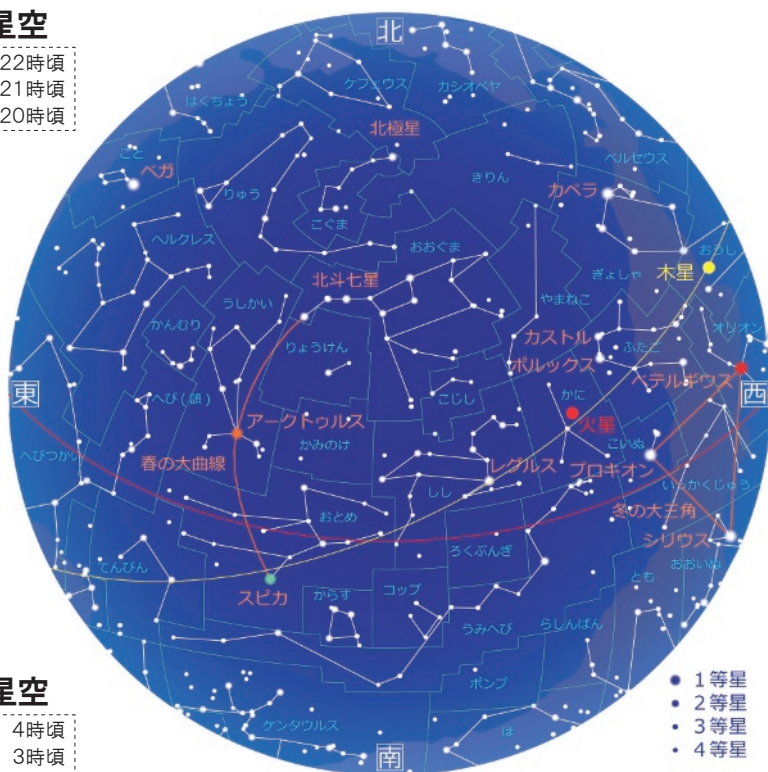
星空ガイド 4月16日～5月15日

よいの星空

4月16日22時頃

5月 1日21時頃

15日20時頃

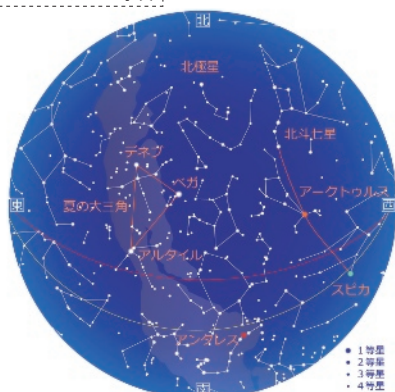


あけの星空

4月16日 4時頃

5月 1日 3時頃

15日 2時頃



〔太陽と月の出入り(大阪)〕

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
4	16	水	5:25	18:30	21:47	6:43	17.7
	21	月	5:19	18:34	1:17	11:05	22.7
	26	土	5:53	18:38	3:58	16:51	27.7
5	1	木	5:07	18:42	7:31	23:02	3.3
	6	火	5:02	18:46	12:57	1:47	8.3
	11	日	4:58	18:50	17:41	3:47	13.3
	15	木	4:55	18:53	21:37	6:05	17.3

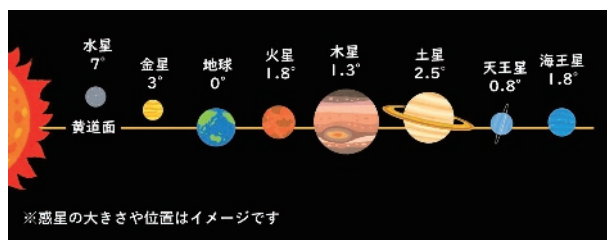
※惑星は2025年5月1日の位置です。

月と惑星がならぶのはなぜ？

今月の「こよみと天文現象」の欄を見てみると、月や惑星がならんで見える日が多くあります。どうして頻繁に月や惑星がならんで見えるのでしょうか。その理由は惑星が公転する軌道にあります。

惑星は太陽を中心にしておよそ同心円の軌道を描いて公転していますが、その軌道を横から見てみると大体同じ平面上(黄道面上)にあるように見えます。そのため、太陽系の惑星はどれも太陽の見かけの通り道(黄道)の近くを動いていくように見えるのです。さらに、月の通り道(白道)も黄道からわずかに傾いた軌道のため、月も黄道の近くを動いていくように見えます。惑星も月も黄道の近くを動いて見えるので、ならんで見えることがよくあるのです。

目立つ惑星と暗い惑星がならぶときは、目立つ惑星が目印になってくれるので見つけづらい惑星を観察するチャンスとなりますし、月や金星・木星などの目立つ惑星がならぶ様子は望遠鏡を使わなくても肉眼で十分に楽しむことができます。惑星や月がならんで見えるのを利用して、いろいろな惑星の観察にチャレンジしてみましょう！



地球の黄道面に対する各惑星の軌道面の傾き(イメージ)

野村 美月(科学館学芸員)

【こよみと天文現象】

月	日	曜	主な天文現象など
4	17	木	明け方に月とアンタレスがならぶ
	20	日	穀雨(太陽黄経30°)
	21	月	●下弦(11時) 火星が東矩
	22	火	水星西方最大離角 こ座流星群が極大(22時)
	25	金	明け方に月と金星と土星がならぶ
	26	土	明け方に月と水星がならぶ
	27	日	金星が最大光度
	28	月	●新月(20時)
	29	火	明け方に金星と土星がならぶ

月	日	曜	主な天文現象など
5	1	木	八十八夜 月と木星がならぶ
	3	土	金星と海王星がならぶ
	4	日	●上弦(23時) 月と火星がならぶ
	5	月	変光星うみへび座Rの極大 立夏(太陽黄経45°)
	7	水	この頃みずがめη流星群が極大
	10	土	月とスピカがならぶ
	13	火	○満月(2時)
	14	水	月とアンタレスがならぶ